

2022年の伊賀市10大（重大）ニュース

1月	「第10回住みたい田舎ベストランキング」で伊賀市が4年連続三重県内1位
3月	青山複合施設「アオーネ」がオープン
4月	伊賀市・名張市の消防連携・協力を開始
7月	伊賀線全線開通100周年
8月	8月の感染者数が過去最多を更新 新型コロナウイルス感染症対策支援事業を実施
9月	旧上野市庁舎の利活用を含む「にぎわい忍者回廊PFI事業」の契約成立
10月	IDXアクションプランに基づくデジタル行政サービス「ポチッと・サラッと」などを開始
10月	「上野天神祭のダンジリ行事」などが3年ぶりに開催
11月	2022FIFAワールドカップサッカー日本代表選手に伊賀市出身の町野修斗選手
11月	「勝手神社の神事踊」がユネスコ無形文化遺産に登録

## 概 要

### 1月 「第10回住みたい田舎ベストランキング」で伊賀市が4年連続三重県内1位を達成

(株)宝島社発行の「田舎暮らしの本」2月号の「第10回住みたい田舎ランキング」で、シニア、子育て、若者・単身者の3部門の全部門で、三重県内の自治体で伊賀市が1位となった。今年はコロナ禍での新たな移住の取り組みを模索し、おためし移住施設登録制度を創設したほか、移住コンシェルジュによる一日移住体験ツアー“ぐるっと伊賀巡り”も好評を得ている。平成28年から今年10月末までに234世帯、474人が移住された。

### 3月 青山複合施設「アオーネ」オープン

地域の人たちが積極的に交流し、人が集い繋がる施設となるよう愛称を「アオーネ」と名付けた行政とコミュニティの機能を併合したコンパクトな複合施設が、3月22日にオープンした。青山支所と青山図書室のほか、地域包括支援センター南部サテライト、阿保地区市民センターが入所している。

### 4月 伊賀市・名張市の消防連携・協力を開始

伊賀市と名張市が「消防行政の連携・協力に関する協定」により、災害時の相互応援出動や火災予防業務の連携を開始した。(通常時の消防業務での連携・協力も含めた包括的な協定は三重県初)また、指令業務については、2024(令和6)年4月から共同消防指令センターの運用を開始すべく、計画を進めている。

### 7月 伊賀線全線開通100周年

伊賀鉄道伊賀線は1916(大正5)年に開業し、1922(大正11)年に当時の上野町から名張までの全線が開通してから今年で100周年を迎えた。7月18日の式典では、特製ヘッドマークをつけた記念列車が運行され、伊賀白鳳高校工芸部員が制作した茅町駅木製ベンチのお披露目式もあり、関係者や鉄道ファンが100周年を祝うとともに、伊賀線の将来につながる催しが行われた。

8月	<b>8月の感染者数が過去最多 新型コロナウイルス感染症対策支援事業を実施</b>
----	---

新型コロナウイルス感染症の第7波の中、8月18日の市内における新型コロナウイルス感染者数が229人と過去最多となり、8月の市内感染者数は4,042人だった。1月から12月の新型コロナウイルス感染症対策事業予算額は約20億円。（ワクチン接種事業経費除く）

9月	<b>旧上野市庁舎の利活用を含む「にぎわい忍者回廊PFI事業」の契約成立</b>
----	--

市街地を回遊する導線を「にぎわい忍者回廊」と位置づけ、忍者体験施設の整備と、旧上野市庁舎を改修し図書館を核とする複合施設への整備に向け、民間の資金やノウハウを活用した公民連携によるPFI事業の契約が成立した。大阪・関西万博を見据え、多くの人に伊賀を訪れていただくともに、市民にとって居心地がよく、いつでも気軽に集える拠点の整備に向け大きな一歩を踏み出した。

10月	<b>IDX アクションプランに基づくデジタル行政サービス「ポチッと・サラッと」などを開始</b>
-----	---

10月3日からデジタル行政サービスとして「行政手続のオンライン申請サービス ポチッと申請」「くらしの手続ガイドサービス サラッと解決」の運用を開始し、行政サービスの一層のデジタル化を進めている。このほか、1月からはeモニター制度の開始、5月には伊賀市防災・情報アプリ「HAZARDON（ハザードン）」の配信開始と、市税のキャッシュレス決済納付に新たにクレジットカードおよびネットバンキング決済を導入した。

※ポチッと・サラッと：

「ポチッと申請」スマートフォンを通じて、住民票などの発行手続きが、いつでも、どこでもできるサービス

「サラッと解決」スマートフォンやパソコンから、ライフイベントにおける必要な手続きが簡単に検索できるサービス

※eモニター：市が行うインターネットを活用したアンケートに回答する市民モニター

10月	<b>「上野天神祭のダンジリ行事」などが3年ぶりに開催</b>
-----	---------------------------------

新型コロナウイルス感染拡大により2年連続で中止となっていたユネスコ無形文化遺産「上野天神祭のダンジリ行事」が3年ぶりに開催され、約10万人で賑わった。このほか、ライトアップイベントお城のまわり（8月）や上野城薪能（9月）、伊賀上野NINJAフェスタ（10月）、忍者の里伊賀上野シティマラソンの実走大会（11月）など各種イベントが感染症対策を実施しながら開催された。

11月	<b>2022FIFAワールドカップサッカー日本代表選手に伊賀市出身 町野修斗選手が選出</b>
-----	--

FIFAワールドカップカタール大会に出場する日本代表選手26名に、伊賀市出身の町野修斗選手が追加召集された。町野選手は湘南ベルマーレに所属し、ゴールを決めた時の忍者ポーズのパフォーマンスが話題となっている。市内でもパブリックビューイングを開催し、市民が選手たちに声援を送った。

11月	<b>「勝手神社の神事踊」がユネスコ無形文化遺産に登録</b>
-----	---------------------------------

山畑の「勝手神社の神事踊」が、全国各地の歴史や風土に応じて様々な形で伝承されてきた盆踊、小歌踊、念仏踊、太鼓踊などの民俗芸能「風流踊」41件の一つとして、ユネスコ無形文化遺産に登録された。2016（平成28）年に登録された「上野天神祭のダンジリ行事」に次いで2件目の登録となり、伊賀市の歴史文化の素晴らしさを内外に示すこととなった。